三好市「旧東祖谷山村」の社寺建築

社寺建築班（郷土建築研究会）

坂口　敏司[*1]　上野　祥吾[*2]　大坂　公吉[*3]　金尾　百子[*2]　黒崎　仁資[*4]　酒巻　暢代[*5]
志水　亮介[*2]　中野　真弘[*6]　宮田　千鶴[*6]　宮田　育典[*7]　森兼　三郎[*8]

要旨： 神社は，流造が大勢を占めた。彩色されたもの，特徴的な龍の木鼻持ったもの，皿斗を置いたもの，台輪留が多く見られた。境内では，地神塔を祀っている所は少なかった。お堂は，すべて閉鎖型の三間堂であった。また，軒裏の造りで４種類のものが見られた。

キーワード： 東祖谷の社寺建築，東祖谷の神社建築，東祖谷の寺院建築，東祖谷のお堂建築，東祖谷の棟札

１．はじめに

旧東祖谷山村は，徳島県の西部に位置し，徳島県の最高峰「剣山」の山頂を東端とし，西斜面を流れる吉野川支流祖谷川に沿った位置にある。西は旧西祖谷山村，北は東みよし町・美馬市，東は那賀町，南は高知県に隣接する。

社寺建築班は，７月28日から町内に入り，社寺建築を建築学的見地から調査した。神社は23社24件，寺院は３カ寺，お堂は15カ所を調査し，案内図（**後掲の図７**）を作成し，それぞれの建立年代や構造，建築様式などを一覧表（**表２・３**）にまとめた。そのうち神社３カ所，お堂２カ所については詳細調査を行い，実測図を作成した。建築年代については，書籍や棟札から確認できるもの以外は，建築様式から推測することとする。

また，神社２社，お堂２カ所については，計43枚の棟札を調査し，その寸法，年代，大工名等の内容を記録し，一覧表（**表１**）にまとめた。また，建立年代等の確定に大きな成果を得た。

２．旧東祖谷山村の社寺建築概要

１）神社建築の概要

今回の調査で建立年代が最も古かったものは，釣井の三所神社本殿で，棟札（**図１**）からは，明治９年（1876）の再建であると考えられるが，当初材が多く残り，棟札に書かれた「再建」の程度が不明であり，これ以前のものとも考えられ，より詳細な調

図１
釣井の三所神社の棟札

図２
春日造（久保の十二社神社）

＊1　坂口建築設計室　＊2　徳島大学工学部　＊3　大坂工務店　＊4　黒崎建設　＊5　奈良女子大学大学院　＊6　真建築都市研究室
＊7　宮田建築設計工房　＊8　A+U 森兼設計室

査が必要と思われる。その他は，棟札等で確認したもの，様式で判断したものを含め明治以後に建てられたものであった。

様式は，徳島県下において最も多く見られる「流造」が19社で見られた。そのうち４社が二間社，残りはすべて一間社であった。他は「春日造」（**図２**）が２社，「神明造」が１社，覆屋に収められ確認できなかったもの（**図３**）が２社であった。彩色が施された本殿が９社で見られ，２社は旧来のままの彩色であったが，７社においては近年にペンキで塗られている。彫刻では釣井の三所神社の木鼻を見本に造ったと思われる，側面を向いたままのユニークな形をした龍の彫刻（**図４**）が６社で見られた。向拝柱頭部に皿斗を置いたもの，身舎柱頭部を台輪留にしたもの，化粧垂木を身舎部は一軒とし向拝部を二軒としたものが多く見られた。また，三野町の総合調査で確認した柱頭部の組物に連続させた通肘木や先

図３
覆屋に納められたもの（劔神社）

図４
木鼻の龍と皿斗（西山の三体神社）

図５
せいがい造（釣井の薬師堂）

図６
大西の観音堂

端に丸みを付けずに直角に切った直線肘木が特徴である，三野町在住であった千葉・佐賀山系の大工の流れと思われる組物が蟻宮神社などで見られた。直線肘木は明治期に流行した意匠で，徳島県の西部に多くみられ，代表的なものに美馬郡つるぎ町半田の石堂神社本殿や香川県の金比羅神社の奥之院が挙げられる。また，境内に地神塔を祀る所は少なかった。

２）寺院建築の概要

寺院の建立年代は，全て近代から現代のものであった。

お堂は，神社と対になるよう立地するものが多くあった。これは，明治初期以前の神仏混淆の名残であり，故に寺院が少ないと考えられる。

今回の調査で建立年代が最も古かったものは，天保12年（1841）に建立された大西の観音堂（**図６**）であった。これ以外で棟札により建立年代が確認できたものは明治と昭和に建立されたものであった。

様式は，すべて閉鎖型の三間堂であった。屋根は，当初は茅葺きであったものに鉄板で覆ったものや，茅を撤去し鉄板を葺いたものが多く見られた。また，軒裏の造りで，外壁面の丸桁から化粧垂木を出したもので出が浅いもの，雪の多い地域で見られる，縁通りに柱を立て，桁を置き化粧垂木を受け軒を深くしたもの，梁を持ち出し桁を受け，化粧垂木を出し軒を深くしたもの（せいがい造り）（**図５**），外壁面の丸桁から化粧垂木を出したもので出が深いもの，の４種類のものが見られた。社寺建築では桔木で軒を出すが，垂木のみで軒を出した民家で採用される工法のものもあった。

表１　棟札一覧表

名称	○は現存建物のもの		番号	西暦	年号	年	干支	目　的	大　工	そ の 他	寸法					鬼門切	備　考
											総高	片高	上幅	下幅	厚さ		
三所神社（釣井）			1	1605	慶長	10	乙巳	再興			1140	1118	122	110	15	右	
			2	1638	寛永	15	戊寅				800	793	118	110	11		
			3	1688	貞享	5	戊辰	建立			954	941	153	132	12		
			4	1700	元禄	13	庚辰				1093	1080	152	136	20		
			5	1717	享保	2	丁酉	再興	大工　カモ村尾形常右衛門	小工　磯之助　　長兵衛	1245	1210	175	133	8		
			6	1729	享保	13	戊申	建立	大工　藤原緒方常右衛門信清	小工　緒方磯之助　三次兵衛　直次兵衛	1110	1085	176	167	26		
			7	1758	宝暦	8	戊寅	再興	大工　藤原緒方常兵衛正次	小工　民右衛	1098	1082	180	170	40		
			8	1773	安永	2	癸巳	再興	大工　讃州豊田郡流岡村　横田長右衛門		1126	1119	184	170	33		
			9	1800	寛政	12	庚申	再興	大工　藤嶋和太郎	小工　同右　善太	1141	1126	182	168	22		
			10	1816	文化	13	丙子	再興	大工　藤嶋平五	小工　同　元左衛門	1140	1120	180	168	25		
			11	1835	天保	6	乙未	再興	大工　千葉儀蔵	小工　千葉喜代治	984	971	182	142	21	右	
			12	1857	安政	4	丁巳	再建	大工　富島美代吉	小工　武左エ門	940	920	151	120	16	左	
		○	13	1876	明治	9	丙子	再建	大工　喜多長次郎　柿平文次郎		974		106	98	23		
	新明神社		14	1886	明治	19	丙戌	上棟	大工　喜多長次郎　柿平文次郎		906		170	144	18		
			15	1893	明治	26	癸巳	上葺替	大工　丸岡亀吉		940		121	109	22		
			16	1920	大正	9	庚申	上棟葺替	大匠　藤本利市郎	小工　西谷富三郎	845		145	120	25		
			17	1930	昭和	5	庚午	葺替	大工　杉本義信	屋根屋　内田芳吉	727	692	165	130	11		
			18	1938	昭和	13	丁丑	葺替	大工　鈴木常市　西尾宗重		873	858	155	120	30		
			19	1968	昭和	43	丙午	葺替	大工　山本正市　岡田光明　喜多厚　所本定夫		942	927	151	122	16		
			20	1986	昭和	61	丙寅	修復	工匠棟梁　平尾豊　他２名		896	883	118	96	18		檜
			21	判読不明					判読不明		1384	1363	165	136	11		古い
			22	判読不明				造立	判読不明		1118	1098	120	110	18		古い
薬師堂（釣井）	薬師堂		1	1688	貞享	5	戊辰	造営			636	617	112	102	25		
	仏像		2	1736	享保	20	甲寅	仏像再造立			685	675	134	110	21	左	
			3	1774	安永	3	甲午	再建	三好郡昼間村新助		635	623	113	98	23	左	
			4	1896	明治	29	丙申	再建	三好郡昼間村丸岡亀吉		848	835	152	135	14		
	阿弥陀堂	○	5	1909	明治	42	己酉	造営	大工　山口鉄蔵	小工　橋本正繁　三谷前	712	696	153	133	19	左	
			6	1974	昭和	49	甲寅	屋根改修			708	680	135	180	25		
観音堂（大西）			1	1782	天明	2	壬寅	建立			540	530	118	103	23	右	
			2	1806	文化	3	丙寅	普請	大工者　藤原帷右典作之		543	530	115	105	16	左	
			3	1814	文化	11	甲戌	新建替	当所　藤原右典作之		555	542	125	122	20		
		○	4	1841	天保	12	辛丑	建替	大工　安左衛門作之		744	735	100	95	23	左	
			5	1867	慶応	3	丁卯	葺替			756	742	120	115	22	左	
			6	1954	昭和	29	甲寅	修復			723	707	110	90	15	右	
			7	1974	昭和	49	甲午	上棟	大工　野地昌明他		981	965	141	121	16		
新田神社（小島）	若宮大明神		1	1726	享保	11	丙午	建立	大工　藤原朝臣鶴井興左衛門尉□□		640	615	123	100	16	右	
	若宮大明神宮		2	1772	明和	9	壬辰	建立	大工　長兵衛		748	740	130	97	28		
	若宮大明神		3	1803	享和	3	癸亥	建立	大工　三好郡西山村河内虎次郎		753	747	130	118	10	左	
	若宮大明神		4	1832	天保	3	壬辰	再建	大工　井川村　吉兵衛		755	747	126	115	20		
	若宮大明神		5	1855	嘉永	8	乙卯	屋根葺替	大工　三好郡加茂村藤原清右エ門		765	752	124	115	21	左	
	若宮神社		6	1871	明治	4	辛未	鎮魂		美馬郡祖谷里江名と記述あり	685	660	130	130	15		
	若宮神社		7	1874	明治	7	甲戌	屋根葺替	大工　善徳村　井上政一		733	720	129	117	26		
	若宮神社		8	1894	明治	27	甲午	上棟葺替	大工　黒田新五郎		790	790	134	117	6		

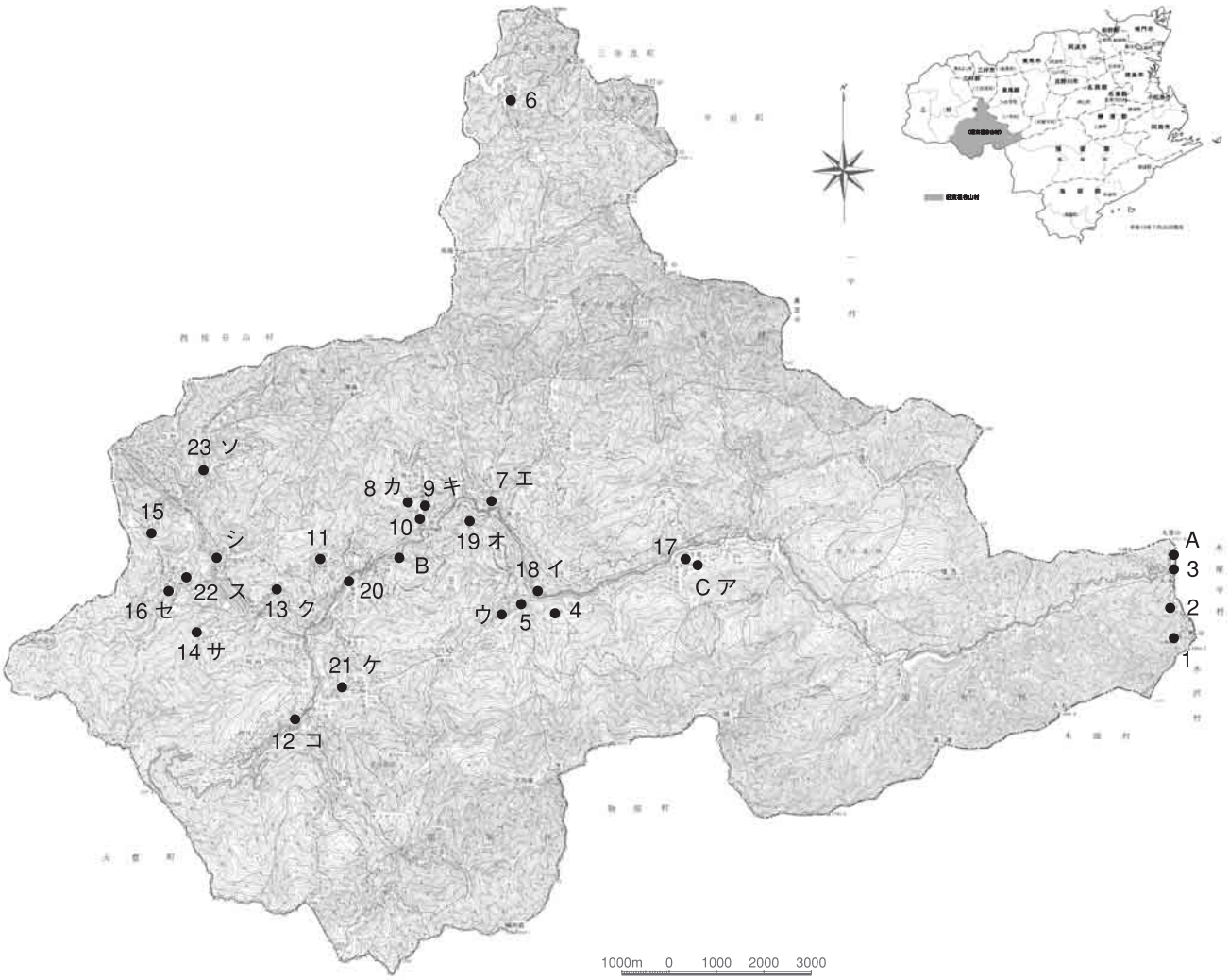

図７　東祖谷の社寺建築案内図

表２　神社建築調査一覧表

№	神　社　名	鎮 座 地	創　　建	祭　　神	旧社格
1	劔神社 つるぎ	菅生201	不詳 口碑に仁和時代（９世紀末）と伝える　＊１	安徳天皇　大山祇命　素戔嗚命	旧郷社
2	西島神社 にしじま	菅生202	不詳 劔神社の姫神を祭る　＊１	磐長比売命	旧無格社
3	十二社神社 じゅうにしゃ	菅生152	阿波誌によると，正平２年（1347）の創祀とされる　＊１	伊邪那岐命　瓊々杵尊 鵜草葺不合尊	旧無格社
4	十二所神社 じゅうにしょ	久保527	不詳	伊邪那岐命　伊邪那美命　事解男命 速玉男命　罔象女命　埴山姫命 彦火々出見命　瓊々杵尊　天忍穂耳命	旧村社
5	三体神社 さんたい	西山401	不詳 もと三体妙見宮と称す。＊１	武甕槌命　天児屋根命　経津主命	旧無格社
6	大神社 だい	落合469 深渕	不詳	天照大神	旧村社
7	三処神社 さんしょ	落合175	不詳 阿波誌に「三処祠，祖山落合名にあり延宝５年（1677）置く」とある。＊１	天児屋根命　天太玉命	旧村社
8	住吉神社 すみよし	奥の井72	不詳 阿波誌に「住吉祠，祖山奥井名に在り元禄２年（1689）重造す」とある。＊１	表筒男命　中筒男命　底筒男命	旧無格社
9	八幡神社 はちまん	栗枝渡144	元暦２年（1185）屋島の戦いに敗れた平家の一族が安徳帝を奉じて祖谷にのがれ，数年のち安徳帝が崩御し祀ると伝える。＊１	誉田別命　安徳天皇	旧村社
10	黒岡神社 くろおか	下瀬77	不詳 阿波誌に「黒岡祠，天文20年（1551）置く」とある。＊１	国常立命	旧村社
11	鉾神社 ほこ	大枝45	安徳天皇祖谷山へ移らせ給いし折，鉾を納めたところと伝える。阿波誌に「鉾祠，祖山大枝名に在り」とある。＊１	彦火々出見命　瓊々杵尊 鵜草葺不合尊	旧無格社
12	白山神社 はくさん	小川160	不詳 阿波誌に「祖山安佐‥白山祠源長治を祀る延宝５年（1677）重造す」。＊３	日本武命	旧無格社
13	新田神社 にった	大西14	不詳 阿波誌に「祖山安佐‥新田祠元和９年（1623）置く」。＊３	倉稲魂命	旧無格社
14	牛頭神社 ごず	元井12	不詳	天児屋根命　天太玉命	旧無格社
15	三宝神社 さんぽう	今井８	不詳	大己貴命	旧無格社
16	三所神社 さんしょ	釣井253	妙見三所大明神と称されていたが，廃仏棄釈の時期から現在の名で呼ばれる。＊２ （妙見三所大権現　＊３）	瓊々杵尊　経津主命　武甕槌命	
17	八幡神社	菅生48	不詳 阿波誌に「祖山菅生名に在り正平16年（1361）…」とある。＊３	誉田別命	
18	五社神社	久保724-2	不詳 阿波誌に「祖山窪名に在り‥大宮正徳３年（1713）置く」とある。＊３	大己貴命　大宮比売命　少名彦名命 猿田彦命　稲倉魂命	
19	八坂神社	中上46	不詳	速素戔嗚命	
20	戌之宮神社	京上113	不詳	国常立命	
21	蟻宮神社	安佐206	不詳 阿波誌に「蟻宮あり正保３年（1646）置く」。＊３	大己貴命　少名彦命	
22	五社神社 （初志神社）	釣井170	不詳	大己貴命　少彦名命 埴山姫命　事代主命	
23	新田神社 （金刀比羅神社）	小島54	不詳	大己貴命　金山彦命	

＊１：徳島県神社誌　＊２：阿波の寺社建築　＊３：東祖谷山村誌　＊４：徳島県の近世社寺建築

表３　寺院建築・御堂建築　調査一覧表

寺 院 名		所 在 地	開　　基	本　　尊
A	剣山円福寺	菅生（見ノ越）		安徳帝像（剣山大権現） 右脇：弘法大師像　左脇：倶利迦羅明王像
B	集福寺	京上	大同年間（806～810）空海の開基創立。 昭和初期に現在地へ遷る。	
C	円福寺	菅生108	不詳	不動明王像
ア	阿弥陀堂	菅生102		阿弥陀如来立像
イ	毘沙門堂	久保325		毘沙門天立像
ウ	阿弥陀堂	西山388	明和３年（1766）仏像と堂を建立の棟札を保存	阿弥陀如来座像
エ	薬師堂	落合86		薬師如来坐像
オ	阿弥陀堂	中上46-2		阿弥陀如来立像
カ	阿弥陀堂	奥ノ井44		阿弥陀如来座像
キ	阿弥陀堂	栗枝渡143		阿弥陀如来座像
ク	観音堂	大西14		十一面観音立像
ケ	観音堂	安佐211		聖観音坐像
コ	阿弥陀堂	小川161		阿弥陀如来立像
サ	阿弥陀堂	元井11		阿弥陀如来立像
シ	阿弥陀堂	和田25		阿弥陀如来座像
ス	薬師堂	釣井92		阿弥陀如来立像
セ	阿弥陀堂	釣井253		薬師如来立像
ソ	大日堂	小島165		地蔵菩薩像

平成18年９月末日現在

鳥居様式（材料）	本殿　建築様式	拝殿　建築様式　向拝	特　記　事　項	A	B	C
	（山頂社）　不明　木造覆屋 （見の越）　木造　神明造	（山頂社）　木造　切妻造　鉄板葺 向拝：入母屋　鉄板葺 （見の越）　木造　切妻造　鉄板葺 向拝：入母屋　鉄板葺	（見の越）　本殿：大正年間			
	不明　木造覆屋	木造　切妻造　銅板葺き 向拝：なし				
明神（銅板巻き）	木造　一間社流造　銅板葺 ペンキ塗	なし	昭和61年 最古の棟札：寛文３年（1663）＊３			○
明神（御影） 昭和51年	木造　一間社春日造　鉄板葺 彩色の痕跡あり，一部ペンキ塗	なし	最古の棟札：明治38年（1905）＊３	○		
明神（木造）	木造　二間社流造　鉄板葺 一部彩色	なし	舞台兼用神輿庫あり		○	
明神(コンクリート)昭和48年	木造　一間社流造　銅板葺	木造　入母屋造　銅板葺 向拝：なし	現代のもの		○	○
台輪（鉄骨） 昭和45年	木造　二間社流造　銅板葺	木造　入母屋造　銅板葺 向拝：大唐破風　銅板葺	手水舎あり 古い棟札はない　＊３		○	○
明神（御影） 昭和61年	木造　一間社流造　銅板葺	木造　入母屋造　銅板葺 向拝：入母屋　銅板葺	昭和62年 寛政11年（1689）などの棟札　＊３			○
	木造　二間社流造　鉄板葺 ペンキ塗	木造　入母屋造　鉄板葺 向拝：切妻　鉄板葺	寛保２年(1742)火災にあう，江戸期の棟札 ５枚あり　＊３	○		
台輪（コンクリート） 昭和42年	木造　一間社流造　鉄板葺	木造　入母屋造　鉄板葺 向拝：なし	永正13年（1516）の棟札あり　＊３	○		○
明神（御影） 平成８年	木造　一間社流造　銅板葺	木造　入母屋造　鉄板葺 向拝：なし	昭和24年頃建立，大工は西谷政次郎（地域の人から聞取）		○	○
明神（御影） 昭和54年	木造　一間社流造（折屋根） 銅板葺	木造　入母屋造　銅板葺 向拝：なし	本殿，拝殿屋根葺き替え　昭和59年 江戸期の棟札10枚ほどあり。＊３			
明神（コンクリート）	木造　一間社流造（折屋根） 鉄板葺	木造　切妻造　鉄板葺 向拝：なし		○		
	木造　一間社流造　銅板葺	木造　入母屋造　鉄板葺 向拝：なし	実測調査		○	
	木造　一間社流造（折屋根） 大和葺　木造覆屋	木造　入母屋造　銅板葺 向拝：なし	明治４年の棟札　＊３			
明神（御影） 昭和11年	木造　一間社流造　鉄板葺 彩色の痕跡あり	木造　入母屋造　鉄板葺 向拝：なし	本殿：明治９年再建（棟札） 江戸初期の建立　＊２　17C後期の社殿　＊４	○		
様式なし　鉄骨製	木造　二間社流造　銅板葺	なし	寛政９年（1797）文政12年（1829） などの棟札。＊３			
明神（御影） 明治28年	木造　一間社春日造　鉄板葺 ペンキ塗	なし	最古の棟札：明治10年（1877）＊３	○		
両部(木造)台輪なし	木造　一間社流造　小波トタン葺 木造　覆屋	木造　入母屋造　鉄板葺 舞台兼用				
台輪（コンクリート） 昭和23年	木造　小社殿	木造　入母屋造　鉄板葺	文政９年（1826）の棟札　＊３			
明神（御影） 昭和55年	木造　一間社流造　鉄板葺 木造　覆屋	なし	本殿：明治37年（1904）大工藤本利一郎（棟札で確認） 舞台：木造入母屋造鉄板葺き　せいがい造り		○	○
明神（コンクリート）	木造　一間社流造　銅板葺	木造　入母屋造　銅板葺	古い棟札なし，応永29年（1422）の狛犬。＊３	○		○
明神（御影） 昭和62年	木造　一間社流造（折屋根） 銅板葺	木造　入母屋造　鉄板葺	若宮神社の棟札を保存 明治29年の棟札が最古。＊３		○	○

A：特徴的な龍の木鼻　B：皿斗あり　C：台輪留

平成18年９月末現在

建物名　屋根形式　屋根材　建築年代	軒の出し方	特　記　事　項
本堂　木造　入母屋造　銅板葺 鐘楼　木造　入母屋造　銅板葺		
本堂　木造（様式外　民家型）		
本堂　木造　入母屋造　スレート瓦葺き		境内に剣山大権現と荒神社を祀る 木造一間社流造見世棚造　２棟　昭和28年
木造　宝形造　鉄板葺　縁柱型	縁通り柱	
木造　宝形造　茅葺に鉄板巻き　縁柱型	縁通り柱	
木造　宝形造　鉄板葺　縁柱型　明治29年（1896）	縁通り柱	実測調査，棟札確認
鉄筋コンクリート造　宝形造（様式外）	－	
木造　宝形造　銅板葺（様式外）	垂木　一軒	
木造　宝形造　鉄板葺	垂木　一軒	本尊は県指定文化財で背後のRC造の収蔵庫に納める
木造　宝形造　茅葺に鉄板巻き	垂木　一軒	
木造　宝形造　茅葺に鉄板巻き　天保12年（1841）	垂木　一軒（浅）	棟札調査
木造　宝形造　鉄板葺	垂木　二軒	実測調査
木造　宝形造　茅葺に鉄板巻き　明治28年（1895）	せいがい造り	棟札確認　大師堂と合併したと思われる
木造　宝形造　鉄板葺　昭和29年（1954）	垂木　一軒	棟札確認
木造　宝形造　鉄板葺　明治２年（1869）	せいがい造り	棟札確認　大工喜多友左エ門
木造　宝形造　銅板葺	せいがい造り	
木造　宝形造　鉄板葺　明治42年（1909）	せいがい造り	棟札調査
木造　宝形造　銅板葺　昭和60年	垂木　一軒	

3．旧東祖谷山村の各社寺

1）三所神社（表１－16）（図８～11）

鎮座地－釣井253

［本殿］木造　一間社流造　見世棚造　鉄板葺

身舎－円柱　切目長押　内法長押　頭貫木鼻（拳）
出三斗　中備彫刻蟇股　一軒繁垂木
妻飾・虹梁　大瓶束

向拝－角柱（角面）　虹梁型頭貫木鼻（龍）
連三斗　繋海老虹梁　中備蟇股（菊の紋）
二軒繁垂木
二方切目縁　擬宝珠高欄（身舎側）　刎高欄（向拝側）　脇障子（板）　木階七級（板）

千木－垂直切２本　堅魚木－５本（うち３本欠落）

この社は，東祖谷の中西部，釣井に鎮座する。

本殿は一間社流造の小規模な社殿であるが，要所において欅材が用いられている。

身舎部分は円柱を切目腰長押と内法長押で固め，柱頭部には拳鼻付の頭貫が載る。身舎の組物は出三斗で一軒繁垂木の軒を支える。正面頭貫上部の柱間には蟇股を填める。妻飾は虹梁の上部に斗付の大瓶束を立てる。（図９）

向拝部分は角面の角柱をたて，虹梁型頭貫で固め龍の木鼻が付く。柱頭部は連三斗の組物で構成され，丸桁から突き出した繋海老虹梁が身舎の頭貫に取り付く。（図10，11）虹梁や肘木に施された彫刻は簡素であるが洗練されていて美しい。また，これら向拝部から身舎にかけての組物や妻飾りに，緑青などの彩色の痕跡がみられる。

二方切目縁に身舎の前面までは擬宝珠高欄が，一段下がって向拝柱筋までは刎高欄が付くという他に例のない造りとなっている。縁は脇障子に取り付く。

木階は板階段とし登擬宝珠を省略する。向拝部の柱・虹梁や身舎の屋根は明治期（棟札：本殿明治９年再建）に新しい材料で修繕されているが，その他は当初材を残している。

東祖谷で江戸期に遡る社殿があるのは貴重で，前後する遺構と併せて文化の流れや系統を知る手がかりとなる。なお，境内にはせいがい造りで軒の出を深くした拝殿も現存する。

図８　本殿側面

図９　本殿妻飾

図10　向拝柱頭部

図11　繋ぎ海老虹梁

2）牛頭神社（表１－14）

鎮座地－元井12

［本殿］木造　一間社流造　銅板葺

身舎－円柱　切目長押　内法長押

頭貫木鼻（拳）　台輪留　二手先　詰組

板支輪　二軒繁垂木　妻飾・虹梁　大瓶束

向拝－角柱（几帳面）　虹梁型頭貫木鼻（龍）　皿斗

連三斗　中備蟇股　繋海老虹梁　手挟

二軒繁垂木　三方切目縁　刎高欄　脇障子

（彫刻）　木階五級（木口）

千木－垂直切２本（欠落）　堅魚木－なし

（図12～15）

この社は，東祖谷の西部，元井に鎮座する。天児屋根命，天太玉命を祭神とする。

本殿は，木造一間社流造銅板葺で，コンクリートの基壇に載る。三方に切目縁を回し，脇障子には彫刻を填め，刎高欄が付く。

身舎部分は，円柱を内法長押と切目長押で固め，柱頭部には拳鼻付の頭貫と台輪留が載る。組物は二手先で中央部に同様の詰組を置く。軒は一軒繁垂木とする。妻飾は虹梁に大瓶束を立てる（図14）。

向拝部分は，几帳面取の角柱を立て，虹梁型頭貫（龍の木鼻付き）で固める。柱頭部には皿斗を置き連三斗の組物で軒を受ける，中備には蟇股を充てる。身舎側には繋海老虹梁が取り付く（図15）。軒は手挟が取り付き，二軒繁垂木とする。

木階は五級の木口階段とする。千木は垂直切のものが２本あるが欠落し，復旧されず縁の上に置いてある。

組物の肘木は身舎・向拝共に先端を曲面加工せず切っぱなしの直線肘木が使われている。

図12　本殿側面

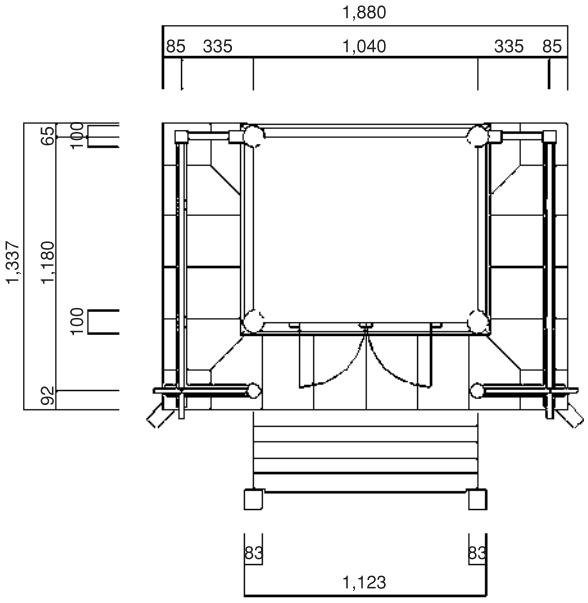

図13　本殿平面図

図14　本殿妻飾

図15　軒部　繋海老虹梁

3）蟻宮神社（表１－21）

鎮座地－阿佐206

［本殿］木造　一間社流造（見世棚造）鉄板葺覆屋

身舎－円柱　切目長押　内法長押　頭貫木鼻（拳）台輪留　二手先　中備彫刻　連斗　一軒繁垂木　妻飾・虹梁　大瓶束

向拝－角柱（几帳面）虹梁型頭貫木鼻（獅子）　皿斗　連三斗　手挟　中備蟇股　二軒繁垂木　三方切目縁　刎高欄　脇障子（背面隅行）　腰板張

千木－垂直切４本　堅魚木－３本

（図16～19）

この社は，東祖谷の南西部，阿佐に鎮座する。創建年代は「阿波誌」に「蟻宮あり正保三年（1646）置く」の記述がある。棟札から明治37年（1904）の再建である。

一間社流造の本殿は，青石基壇に載り，覆屋に安置されている。身舎部分は円柱を切目長押と内法長押で固め，柱頭部には拳鼻付の頭貫と台輪留が載る。組物は二手先で通し肘木とし連斗で飾る。軒は一軒繁垂木とする。妻飾は虹梁の上に斗付の大瓶束が載る（図18）。

向拝部分は几帳面取の角柱を立て，虹梁型頭貫（獅子の木鼻付）で固め，柱頭部には皿斗を置き，連三斗の組物で軒を受ける（図19）。三方に切目縁を回し，脇障子に刎高欄が取り付く。木階や昇り高欄はなく，見世棚造とする。軒は，二軒繁垂木とする。

組物の肘木は身舎・向拝共に先端を曲面加工せず切っぱなしの直線肘木が使われている。

身舎や縁は，後補で塗料が塗られている。

図16　本殿正面

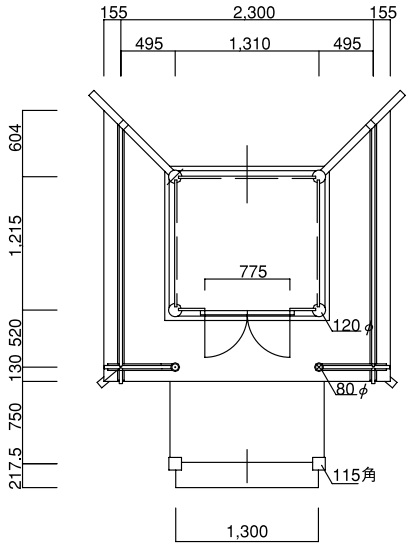

図17　本殿平面図

図18　本殿妻飾

図19　向拝柱頭部

4）新田神社（表１－23）

鎮座地－小島54

［本殿］木造　一間社流造　銅板葺

身舎－円柱（粽）　切目長押　内法長押　頭貫木鼻（雲）　台輪留　皿斗　出三斗　詰組　一軒繁垂木　板戸

妻飾・虹梁　大瓶束

向拝－角柱（几帳面）　虹梁型頭貫木鼻（龍）　皿斗　連三斗　中備彫刻（籠彫）　手挟　四方縁（正面のみ切目縁）　刎高欄　脇障子（彫刻）　木階三級（木口）　昇擬宝珠高欄

千木－水平切２本　堅魚木－３本

（図20～23）

この社は，東祖谷の西部，小島に鎮座する。大己貴命，金山彦命を祭神とする。

本殿は一間社流造で軒から下が波板で覆われている。四方に縁を回しているが，正面のみを切目縁とし正統な工法にしているが，側面と背面は１枚板を使用し切目縁とはしていない。後方45度に設けられた脇障子には松と鷹の彫刻が施され，刎高欄が取り付く。（図22）

身舎部分は青石基壇の上に土台を回し，円柱（粽）を切目長押と内法長押で固め，柱頭部には木鼻付きの頭貫と台輪留が載る。さらに皿斗を載せて出三斗で一軒繁垂木の軒を受ける。柱間中央部にも組物を置く詰組が見られ（図23），これは鎌倉時代の初期に発生した禅宗様に代表される様式の一つである。妻飾は虹梁に大瓶束を立てる。

向拝部分は几帳面取の角柱を立て，柱頭部は龍の彫刻（籠彫）の施された虹梁型頭貫で固める。連三斗で軒を受けて，中備には雲の彫刻を充てる。身舎側へは手挟が取り付く。木階は三級の木口階段で，昇擬宝珠高欄が付く。創建は不詳であるが，村史には最古の棟札として明治29年（1896）のものが残っていると記述がある。

拝殿は入母屋造で茅葺の屋根を鉄板で覆っている。梁を持ち出して桁を受け，軒を深くする出桁造（せいがい造）の建物で，中には若宮神社の棟札が８枚保存されており，最古のものは享保11年（1726）であった。

図20
本殿正面

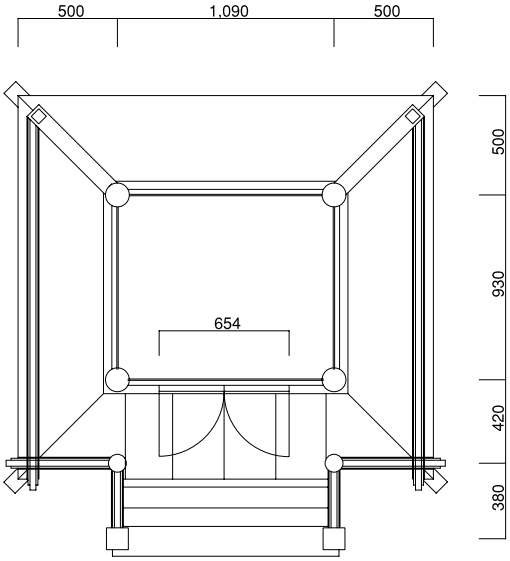

図21
本殿平面図

図22
彫刻脇障子

図23
身舎の組物

5）観音堂（表２－ケ）

所在地－阿佐211
木造　方三間　宝形造　鉄板葺
主屋－角柱（几帳面）切目長押　内法長押　頭貫木鼻（象）二軒疎垂木　四方切目縁
向拝－角柱（几帳面）　一間縋破風　虹梁型頭貫木鼻（龍）　蟇股　皿斗　連三斗　二軒疎垂木
（図24～27）

この堂は東祖谷の南西部，阿佐に所在する。創建は不明である。東祖谷山村誌によると江戸時代の作品と思われる聖観音坐像を本尊とする。また，旧東祖谷山村指定有形文化財の応永12年（1405）鋳造の鍔口が奉納されている。

堂の様式は方三間宝形造，四方を壁と雨戸で囲った閉鎖型の堂である。屋根は建立当初は茅葺であったと考えられるが，現在では茅を取り払い鉄板葺となっている。軒は，二軒疎垂木としている。

主屋の柱は，切目長押と内法長押を回し固めている。また，切目長押と内法長押は，雨戸の敷鴨居を兼ねている。すべての柱に取り付けられた柱頭部の頭貫木鼻は象が彫刻されているが正面２ヶ所は精密な彫刻を施し，正面性を強調している（図26）。

向拝は，正面中央に広一間の縋破風を延ばす。自然石の加工されていない沓石の上に，几帳面の角柱を立て，虹梁型頭貫（龍の木鼻付き）で固める，柱頭部には皿斗を置き，連三斗の組物で軒を受ける（図27）。四方に切目縁を回し，板階段を付ける。

内部は仏壇部分を飛貫で飾り，正面性を持たせている。天井は仏壇と直角に竿縁天井が張られている。

主屋，向拝共に柱は欅材が用いられ，以外の部材は栂材が用いられている。

建立時期は，様式などから明治中期頃ではないかと考えられるが，棟札などによる年代の確認はできなかった。

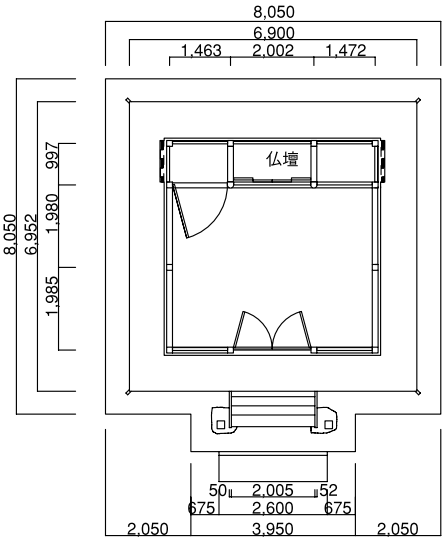

図24　平面図

図25　全景

図26　主屋正面部

図27　向拝柱頭部

6）阿弥陀堂（表２－ウ）

所在地－西山388
木造　方三間　宝形造　鉄板葺
主屋－角柱　切目長押　内法長押
　　台輪（木鼻付き）　一軒疎垂木
縁－角柱　飛貫木鼻（拳）　出三斗
　　手挟　蟇股　木階二級（板）

（図28～31）

この堂は，東祖谷の中央部，西山の山腹にある。阿弥陀如来坐像を本尊とする。

様式は，方三間宝形造で四方を壁と雨戸で囲った閉鎖型であり，四方に切目縁を回し，正面と側面の縁通りに軒を支える柱が立つ（以後，縁通り柱という），裏側の縁は出が少ない。

屋根は，建立当初は茅葺であったと考えられるが，現在では茅を取り払い鉄板葺となっている。主屋の奥列と縁通り柱で囲まれた部分で宝形の屋根を形成している。

主屋部は頭貫が省略され，柱に直接木鼻付き台輪が載り，正面は出三つ斗の組物とし正面性を強調し，側面は平三つ斗（ひらみつど）としている。

向拝はないが，正面縁通り柱の中央部に飛貫（木鼻付き）を填め，柱頭部は出三斗の組物，主屋側に手挟を付け，向拝のように構成している。（図30）。

内部は，正面奥には仏壇が設けられ各々に仏像が安置されている。村誌には「仏像はすべてが江戸時代のもの」とある。

建立年代は明治29年（1896）の棟札に「木材寄進」とあり，この頃に建立されたと考えられる。また，昭和41年（1966）の棟札には屋根替とあり，茅葺から鉄板葺へ葺き替えられたと考えられる（図31）。

軒先の桁には梵鐘（ぼんしょう）が取り付けられており鋳造年代は天保（てんぽう）15年（1844）と刻まれている。

図28　全景

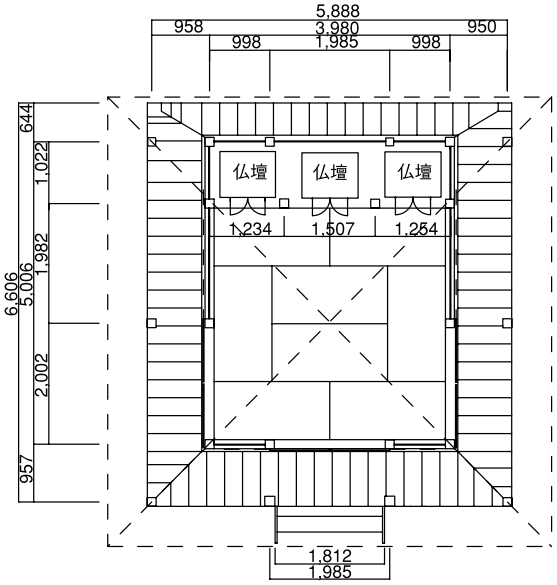

図29　平面図

図30　正面部

図31　棟札

４．おわりに

神社やお堂は，集落に人が住まい，そこに信仰があるから守られてきたものであるが，過疎化と共に集落が消え，神社やお堂も忘れられ消えてしまうであろうことが予測され，一抹の寂しさを感じた調査であった。今回の調査で神社建築にペンキで塗装されたものが数多くあり残念であった。当初から彩色されていたものが傷み,補修したものと思われるが,伝統的な工法や様式を継承し，長く保たれてきたものである。ペンキそのものの耐久性は短く，また，ペンキが木材に与える影響などで老朽化を促進させ寿命を縮める一因ともなる。また，文化財としての価値は無くなってしまうので安易な補修は一考をお願いする。

参考文献

東祖谷山村誌編集委員会（1988）:「東祖谷山村誌」．前田忠悦．

徳島県三好郡郷土史研究会（2003）:「三好郡神社取調指上帳」．みよし広域連合．

徳島県神社庁教化委員会（1981）:「徳島県神社誌」．徳島県神社庁．

奈良国立文化財研究所編（1990）:「徳島県の近世社寺建築（近世社寺建築緊急調査報告書）」．徳島県教育委員会．

㈳徳島県建築士会阿波のまちなみ研究会（1997）:「阿波の寺社建築」．阿波のまちなみ研究会．

㈳徳島県建築士会阿波のまちなみ研究会（1997）:「徳島県の文化財（建造物）」．㈳徳島県建築士事務所協会．

「角川日本地名大辞典」編纂委員会（1986）:「角川日本地名大辞典　36　徳島県」．角川春樹・㈱角川書店．